

改善計画書

施策番号	担当部	担当課	職名	氏名	電話番号(直通)	
14130	企画部	企画政策課	課長	淡野 浩	769-8203	
施策名	高校・大学機能の活用					
施策の目的	大学の人的・物的資源を有効に活用することにより、市民の様々な学習ニーズに応えられる機会の創出や地域産業の振興・発展等をもたらすことを目的とする。					
これまでの取組	<p>大学と地域の連携を進めるための体制づくりとして、大学、企業、NPO、行政による共同事業体(大学地域コンソーシアム)を作った。</p> <p>「健康フェスタ」において、動物医療に関する出展を行った。(麻布大学)</p> <p>市内中学生にバスケットボール、バレーボールの指導を行った。(青山学院大学)</p> <p>大学が所有する薬用植物園を中心に、健康、環境、ビジネスの視点での新たな都市農業の創出をめざし、講座開催や技術開発等の取組みを行った。(北里大学)</p> <p>大企業・大学と中小企業の産産・産学連携マッチング会の開催などを行った。</p>					
評価結果 (平成17年度 実績評価)	1次評価	B	2次評価	C	3次評価	C
	3次評価での指摘事項等及び意見 (は行政評価検討委員会としての指摘事項・改善要望項目)					
	<p>【指標設定について】 担当課の業務の成果がわかる指標を設定すること。 市民にわかりやすい指標を検討し、設定すること。</p> <p>【評価結果について】 評価結果に対する分析を行うこと。 3つの視点(有効性・効率性・市民満足度)のうち、改善する視点の明確化を図ること。</p> <p>【課題と解決策について】 評価結果とその分析に基づいた課題と解決策の検討を行い、明記すること。</p> <p>【その他】 事業の選択と集中を図ることが本評価の目的の一つになっていることから、構成事務事業の優先順位のない施策については、順位付けを行うこと。</p>					
3次評価の指摘事項を踏まえた課題整理	<p>高校・大学機能の活用という「手段概念」が「事業の目的」として施策に据えられていること自体が、施策評価することを困難にしている。</p>					

改善計画	改善目標及び改善時期	市民にわかりやすい指標を設定するとともに、新しい総合計画においては、めざすべきことを明確にし、的確な施策になるよう位置付けを検討する。		
	具体的な改善方策	平成19年度に指標を設定する。 新しい総合計画の中で施策の位置付けの検討を行う。		
	改善項目 [新たな指標の設定]	実施の時期	平成19年度末までに	
		平成19年6月設立の相模原・町田大学地域コンソーシアムで実施する公開講座数を、指標として設定する。		
	改善項目 「新たな総合計画に向けた検討」	実施の時期	平成19年度末までに	
新たな総合計画の中で施策の位置付けを明確にする。				
改善結果	改善項目「 」	実施の時期	平成19年度末までに	
	改善目標の達成状況			
	評価及び今後の取組方針等			